

	第1会場 1352	第2会場 1353	第3会場 611	第4会場 621
9:30-10:10	意識と経験：デカルトにおける知られざる二つの概念		バーナード・ウィリアムズと倫理学理論：ウィリアムズのヘア批判再考	カンギレムによるエビステモロークとしてのパシュラール読解
司会	田村歩 秋保巨		安藤隆之 堀田義太郎	池田信虎 中村大介
10:20-11:00	ライブニッツを読むブロンデルの実際の紐帯論：實在論との区別が消し去られた観念論を求めて	五感のヒエラルキーについて	ボンヘッファーの反ナチ抵抗運動と「形成」	概念の抽象説がモデル化されるまで：17-18世紀論理学史における抽象の系譜
司会	三浦隼暉 津崎良典	繁田歩 景山洋平	逢坂暁乃 陶久明日香	木本周平・浅野将秀・岡崎佑香 富山豊
11:20-12:00		愛を正当化する理由はあるのか	福利論における快樂説の擁護——卑俗性批判への応答	カルナップ、エスペラント、言語工学
司会		源河亨 八重樫徹	笹渥介 神島裕子	松井隆明 三木那由他
13:00-13:40	「哲学的哲学史の創始者」としてのカント	新プラトン主義における象徴の立ち位置と機能	科学の工学的転換点としてのフリース学派 E.F.アーベルトにおける19世紀ドイツ自然科学の転回	共同即興する楽しみと喜び
司会	小原優吉 宮崎祐助	寺島奈那 周藤多紀	太田匡洋 伊藤貴雄	橘英希 宮園健吾

一般研究発表 | 5月18日(日) | ①9:30-12:00 立正大学 品川キャンパス 6号館、13号館

	第1会場 1352	第2会場 1353	第3会場 611	第4会場 621
9:30-10:10	九鬼周造の時間論における「垂直的エクスタシス」—オースカー・ベッカーの「永遠の現在」を手がかりにして—	ラーヘル・レヴィン・ファルンハーゲンとヘーゲルにおける婚姻と女性	カントの時空間論と質料形相論	
司会	上田瑞季 古荘真敬	岡崎佑香 赤石憲昭	道下拓哉 石田京子	
10:20-11:00	森鷗外のフィヒテ哲学受容—『舞姫』から『キタ・セクスアリス』へ	エディット・シュタインとフッサール『イデーナII』	カントにおける前成説と後成説-「自然史」概念の理解に向けて	ウィトゲンシュタインにとって言語ゲームの外側を想定することはどのような意味を持つことだったのか
司会	玉田 龍太郎 嘉目道人	植村玄輝 吉田聡	李明哲 宮村悠介	石田 恵理 島村修平
11:20-12:00	三木清の実践哲学—協同主義の哲学的基礎—	新フィヒテ主義者としての最初期ハイデガー	カントとコミュニケーション的行為の可能性—アンチノミーを「方法論」の観点から再考する—	中期ウィトゲンシュタインの見取り図 —『哲学的考察』と『哲学的文法』の分析を中心に
司会	岩井洋子 本郷均	原子龍之介 轟孝夫	三輪泰之 小谷英生	木本蒼 野村恭史

*発表25分/質疑15分を目安とする。

※タイムテーブル最新版は学会ウェブサイトでご確認ください。

公募ワークショップ | 5月17日(土) | 9:30-12:00 会場11号館 13号館

タイトル	「中期」ウィトゲンシュタインにおける『論考』の継承と転換	哲学的・倫理的問題提起の概念としての理性と感性 カント、パウアー、ルカーチ	現象学の伝統における「カントの読み替え」—フッサールとハイデガーの『純粹理性批判』解釈を中心として	動物の福祉と権利と法
オーガナイザー	山田圭一	柏崎正憲	池田裕輔	浅野幸治
登壇者	高木俊一・入江俊夫・林大悟	秋元由裕・大澤俊朗・柏崎正憲	植村玄輝・丸山文隆・齋藤元紀・増山浩人	綿引周・古澤美映・青木洋英
会場	1152	1351	1361	1371